

# スノードライバランスの優良事例

雪印種苗(株) 千葉研究農場

飼料研究室 岡田卓士

## 1 はじめに

乾乳期は胎児が急速に発育し、次の分娩を間近に控えた期間であるとともに、乳腺細胞やルーメンを休息させ、また再生して機能回復させる期間でもあります。とくにクローズアップ期と呼ばれる分娩前の3週間は胎児の成長に加え、乳腺組織の発達、牛乳の合成開始などから、タンパク質を始めとする各種栄養素に対する要求量が増加します。しかし胎児による消化管の圧迫やミネラル、ホルモン代謝の崩れなどから採食量は低下してくるため、この時期には給与飼料の栄養レベルを上げて対応する必要があります。さらに高産次や高泌乳の乳牛では低カルシウム血症の予防のためにDCAB(飼料中の陽イオン・陰イオンのバランス...Dietary Cation Anion Balance)の調整が必要とされるなど、泌乳期や乾乳前期とは異なる飼養管理が要求される時期になります。

クローズアップ期専用の配合飼料『スノードライバランス』は平成9年の販売開始より5年が経過しようとしています。クローズアップ期に必要なとされる栄養バランスを考え、とくにバイパスタンパク源の強化、DCAB調整のための陰イオン剤を配合し、牛が持つ能力を分娩直後から最大限発揮できるように設計しました。また、バイパスタンパク源には従来より使われていた「魚粕」に変わる新しい素材として「バイパス処理を施したなたね油粕」を昨年の特異性発生以前より採用しており、飼料の安全性はもとより生産者、そして消費者に「安心」を提供できる飼料として、長年にわたりご愛用いただいています。

今回、現地ルポとして、スノードライバランス

をご利用いただき、好感触を持たれている2軒の酪農家さんをご紹介いたします。

## 2 現地ルポ

### 1) 斉藤洋泰 牧場 (新潟県五泉市論瀨)

新潟県のほぼ中央部、阿賀野川が山間部より平野部に流れ出た扇状地に位置する五泉市。名前の由来は、綺麗な五つの泉が湧き出ているところから来ているといわれています。夏冷たく冬暖かい、大変おいしい地下水が利用できる「水と緑が豊かな美しい町」として知られています。地域の特色として冬は雪深く、夏は蒸し暑い日が続くということですが、豊富な水資源を背景にこの地で酪農を営む斉藤洋泰牧場を紹介します。

斉藤牧場の飼養頭数は経産牛27頭、育成牛8頭であり、米作との兼業が多いこの地域では平均的な規模といえます。自給飼料畑はほとんど持たず、購入乾草(オーツ乾草を中心に高泌乳にはルーサ



写真1 斉藤洋泰さんとその牛群 左は息子さんの剛洋さん

ンを併用)と当社のウエット飼料(ビール粕に乾牧草,おからサイレージ,ビートパルプなどを混合,サイレージ化した飼料:当誌48巻,12月号などで紹介),乳配を組み合わせた飼養形態で,平成14年4月現在の産乳成績は1頭平均29kg,乳脂率3.8%,乳蛋白3.3%となっています。

スノードライバランスご利用前の1頭当たり乳量は27kg程度,乳成分や繁殖成績自体に特別問題があったわけではないそうですが,分娩後の採食量が今一つ上がらないこと,また乳量の立ち上がりが思うように伸びていかないことを気にしておられました。そこで乾乳期の管理を再度見直すこととし,スノードライバランスをご利用いただくこととなりました。

スノードライバランスの導入前はオーツ乾草を飽食に近い形で8kg程度,ウエット飼料を10kg,搾乳用の乳配を1~3.5kgをリードフィーディングの形で給与していました。スノードライバランスを組み入れたメニューでは乾草,ウエット飼料の給与量や乾乳前期の乳配給与量に変化はありませんが,分娩予定の3週間前より乳配2.5kgに加えスノードライバランス2kgを給与するようにしました。ご利用の開始は平成13年10月からとこれまで半年を経過したに過ぎませんが,スノードライバランスを給与するようになってからは,泌乳初期の牛たちの乳量の立ち上がりも良くなり,また分娩後の疾病もほとんど見られなくなったとのことでした。ご主人のスノードライバランスについ



写真2 斉藤牧場の乾乳牛 BCSが整い毛艶も良好

ての評価は、「乾乳期用の飼料としては食いが良い。分娩後の立ち上がりの良さが実感として感じられるので大変気に入っている。」とありがたいお言葉をいただきました。

斉藤牧場では粗飼料源を中心に飼料がふんだんに給与されているためか,牛が落ち着いており,また,ゆっくり座って反芻をする姿には牛のゆとりが感じられます。4月からは研修に出ていた息子さん(剛洋(タカヒロ)さん)も後継者として帰ってきました。そのため作業内容も楽になり時間的余裕ができました。この時間的余裕を生かして牛の状態観察に磨きをかけ,更なる成績アップにつながることを期待しています。

## 2) 北畑和徳 牧場(宮崎県北諸県郡三股町)

宮崎県の南部,鹿児島県との県境に位置する霧島の裾野に広がる都城盆地。豊かで清冽な水,肥沃な大地,そして温暖な気候を有するこの地は南九州でも有数の酪農地帯として知られています。この都城盆地に位置する三股町で酪農を営む北畑和徳牧場は,経産牛42頭,育成牛17頭を飼養し,年間9,000kg前後の乳量を搾っています。

北畑牧場では以前より乳熱や第四胃変位などの分娩後の疾病が多く,これを何とかしていきたいと考えていました。そこで乾乳期の管理について見直しを検討され,他メーカーの乾乳用配合飼料を使用し始めたそうです。しかし(DCABについては考慮されていない)この飼料では思うような改善効果が見られず,別の乾乳用飼料を捜し求



写真3 北畑和徳さん



写真4 北畑牧場の牛群

めていたところでスノードライバランスを知りました。「ちょっと使ってみるか」という感じでご利用いただいたのがスノードライバランスのご利用の始まりで、既に4年以上の長期にわたりご利用いただいております。

乾乳後期にスノードライバランスを給与することにより、とにかく分娩後の疾病が少なくなったと伺っております。「ここ3～4年くらいは第四胃変位で手術をするとか、乳熱で廃用にするということが無くなった。(計画的な)廃用をどの牛にするか迷ってしまうくらいだ。本当に獣医泣かせの餌だなあ。」と話していただきました。ご主人がスノードライバランスの給与で感じることは「分娩した牛が、口から入る餌の量で栄養をまかない泌



写真5 受精卵移植により生まれた和牛

乳している。牛が無理せずに泌乳をしているようだ。」ということでした。

北畑牧場は受精卵移植にも力を入れられています。以前は、10,000kg近く乳量を搾っていたこともありましたが、飛節の腫れや、その他疾病が多く管理作業が大変でした。乳量だけでは利益の限界が見えたので、何か新しい事が出来ないかを考えた末に、受精卵を移植し、牛乳を搾りながらET牛を販売することが一番利益があるのでは、と踏み切られました。受精卵移植師の免許も取得し、ご自身で移植をされています。平成13年度は経産牛の30頭に移植し、28頭のET和牛を出荷、平均40万円以上の価格で販売することができました。

ご主人の評価は「受精卵移植がうまく行くようになったのも、スノードライバランスの給与により分娩後の立ち上がりが良くなったことが非常に大きい。立ち上がりが良いからこそ必然的に受胎も良くなる。」と話していただきました。

(取材協力：南九州営業所 小園千弘)

### 3 おわりに

一般に乾乳期用の飼料にはクローズアップ期に効果が認められるDCAB調整のため、陰イオン剤が配合されています。そのため通常の乳配と比較すると、嗜好性については更なる改善が要望されております。当社では配合原料の吟味や陰イオン剤の添加量の見なおしにより、乾乳期用の配合飼料としての性能を維持しながらも、さらに嗜好性を改善させた製品について検討、試験を重ねてまいりました。今回紹介させていただいた2軒以外にも、多くの酪農家さんより「嗜好性については満足している。」「今まで試してきた中で一番嗜好性がいい。」などの声をいただいております。

給与の効果は認めていただきながらも嗜好性の面で乾乳期用飼料のご利用を見送られていたお客様につきましては、これを機に今一度スノードライバランスについてご検討いただき、牛群成績の向上に貢献できたらと願っております。